

## 心の窓

国立精神・神経センター国府台病院

神経内科

湯 浅 龍 彦

視力がおかしいと思い始めたのは数年前であった。両目の奥に何かちらちらと黒い蚊の飛ぶような、違和感を覚えるようになった。都内の大学病院の眼科に通院し、網膜の血管が徐々に詰まってしまう病気で、治療法がないと告げられた。

自分では若い時から気丈な質で、むしろ豪快ともいうべき性格であった。視力が失われることは確かに悲しいことではあるのだが、生きる望みをまったく失った訳ではなく、最愛の夫に先立たれても、それが原因で心身のバランスを崩してしまったとも思っていない。

いったい自分はようになってしまったのであろうか。あの若くて快活であった自分は、ようになってしまったのか。過去1カ月の間に、夜間急に息苦しくなる発作を数回おこし、救急車で病院へ運ばれる。夜間当直医師も、また、昼間に診てもらった呼吸器科でも循環器科でも、異常なしと言われて帰されてしまう。最近は食欲もなく、体重も幾分減ってしまった。夜がこわいのである。視力を失い、夫を亡くし、住み慣れたわが家を離れマンションでの一人暮らし。日中は孫たちと一日を過ごすこともできるが、夜が何とも切ないのだ。

その医師を訪れたのは、網膜の血管が詰まると脳血管も詰まってしまうのではないかと不安になったからである。それに亡くなった夫が神経内科にかかっていたからでもある。脳の異常はありません。その発作は過呼吸発作です、と言われた。原因は恐らく視力を失いつつあることに対する不安と葛藤ではなかろうか。加えて、つい先日ご主人を亡くされたのだから、それらを含めいろんなことが関係しているのではありませんか、とも言われた。

何度か受診するうちにその医師は言った。確かに視力の失われつつある現状には、想像を絶する苦しみと悲しみがありましようが、あなたのこの一連の発作は、本当にそれが原因でしょうか。あなたはもっと別の悩みを持っているのではないですか。ご主人を亡くされたことも確かに大変な心の痛手ですが、だからといってあなたがこのような苦しみかたをなさるといのは、何か他に

原因があるのではないのでしょうか。現在の環境の中に原因があるかもしれません。どうでしょうか。今あなたに最も近い人は誰ですか。人間を救えるのも人間ですが、往々にして人を苦しめるのもまた人間なんですから。あなたに最も近い人と言え、娘さんじゃないかと思うのですが、その医師はさらに続ける、あなたは娘さんに何か、過大な期待をしすぎではありませんか。あなたも娘さんもお見受けしたところ性格は極めて良く似ていらっしゃる。分身のような親子であっても、ちょうど磁石を同じ極で合わせようとする時、近づけば近づくほどお互いに反発するでしょう。あなたがたは、その状況と似ていませんか。実の親子であるがゆえに、より反発するんじゃないですか。すこし、娘さん夫婦から距離をおいてみたらどうでしょうか。

この言葉を聞いた時、私は心の窓に一筋の光を見たように思った。思えば娘との長い葛藤、勝ち気でほとんど振り切るようにして嫁いでいった娘。最近までは一緒に住みたいとはつゆ思ってもみなかったのに、いざ傍に住んでみると、娘に頼りたくなる情けない自分。そして、それを見透かしたように、やさしい言葉の一つも掛けようとしないう娘。こうした忘れかけていた娘と自分との関係に気づいた時、悩みの核心が照らされたように思われた。そうだ、自分は娘のもとを離れよう、このお医者さんが言うように、どこか視力障害者のためのホームでも見つけてそこで暮らそう。そう考えたら徐々に笑顔がこぼれた。

患者さんを「病める人間」として接する時に、初めて原因が見つかることがある。患者さんが心の窓を閉ざし、自分でもその窓を見失った患者さんでは、外に向かって開いている窓が、必ずしも核心に届く窓とは限らない。自分でも忘れ、かつ触れられたくない部分を人間は持っている。その窓を見つけ、そっと開き、新しい風と、光を入れてあげることができるとしたら、専門分野に関係なく臨床医冥利に尽きるというものである。

ところで、目の網膜の動脈が原因もはっきりしないままに次々と血栓によって閉塞してしまう。この病気はいったい何なのでしょう。何か良い治療法はありませんでしょうか。会員の先生方でご存じの方がいましたらお教え下さい。